

深夜螢

鈴木金太郎

涼とる人影絶えぬ月も落ちぬ

柳がぐれに螢三つ四つ

長野盲人學校生徒の俳句第一回の吟

長野 飯島八千溪

秋

美しき庭の亂れや秋の風 酒井

大木の吹き倒されし野分哉 同

故郷を物思ふ夜や雁の聲 同

髪のもつれを吹くや秋の風 同

此松に又來てとまれ秋の蟬 宮島

谷あひや紅葉の中を秋の水 同

朝夕は神纏ほしき秋の風 同

そよくと芒にさはる秋の風 同

しんかんと獨の我に秋の蟬

宮嶋

女郎花戀に咲くべき名なりけり

駒村



説林

母と教育

齋藤鹿三郎

昔者、人あり始めて愛子をあぐるや、如何にしてその子を教育すべきかを知らんが爲めに、幾多の教育書を繙きたるが、讀破數卷にして「我はさとれり、我は猶善くならざるべからず」と獨り言をいふた。